

## 講演会型（幼稚園）

学校名等	みどり幼稚園 子育て広場
実施日時	令和元年9月5日（木）10時～12時
会場	みどり幼稚園 なかよしホール
参加人数	保護者48人
学習課題（分野）	防災「地震に備えて」市役所出前講座
運営者の願い	最近、異常気象や地震による災害が多く、防災に関して意識を高めたいとのことで、講師選定の際に市の出前講座の中から選ばれた。



### 学習の内容

講師：各務原市役所防災対策課 諏訪直彦 氏

#### <今後大型地震があると思う人？>

この質問に「はい」と答えた人は少なかった。しかし、今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフ地震が起きるといわれている。

#### ●地震の仕組み

- ①海溝型地震：プレートの移動によっておこる。東日本大震災  
南海トラフは140年間空白 巨大地震震度6弱が予想
- ②内陸型地震：断層運動によるひずみ・阪神淡路大震災・熊本地震  
桑名まである断層は6強を予想 トラフは70～80年 内陸型は千年万年の間隔で起きる。



#### <来たらどうするのではなく、来る前にやっておくこと>

- ①家屋耐震化・耐震診断（昭和56年より前の建物・耐震補強）
- ②家具転倒防止・金具固定（阪神淡路では76.95%が圧死、頭部等の負傷）  
・家具の配置 ガラス飛散・出入り口をふさぐ
- ③備蓄 ・飲食物・救急セット・その他の備品  
ローリングストック法：多めに購入し古いものから消費し補充する（家族一週間分を備蓄）  
備蓄品について液体ミルク1年保存可能粉は3か月【チューボお出かけ哺乳ボトル】の紹介  
乳幼児の備蓄は食事と衛生を第一に  
・食事：母乳、粉ミルク、離乳食、アレルギー除去食  
・衛生：トイレ（和式トイレの練習）、紙おむつ、おしりふき、口腔ケア（マスク・歯磨きシート等）
- 地震火災を予防しよう：避難の際ブレーカーを切る・電源を切るのが基本だが、予防のためには、感震ブレーカー（震度6以上でブレーカーが落ちる）を付ける。

#### ○災害に備えて

- ・災害遊び。地震ごっこ、火事ごっこで経験させておく。（自発的に進めることが大事）
- ・防災ピクニック。非常食をお弁当代わりにして、非日常を経験させる。
- ・親自身の安定が大事、同じ境遇の人と話す。リラックスする方法を身に付ける。
- ・防災を学ぶ：赤ちゃん和妈妈を守る防災ノート、東京くらし防災、チャイルドビジョン等

#### <震度6弱の地震が発生>

- 家の中での対応：子どもの頭を抱える。子どもはダンゴ虫ポーズ
- 揺れが収まったら：・ガラスや食器で足をけがしないよう靴やスリッパをはく  
・家の中の家族の安否や状況を確認・避難の必要があれば非常持出袋を持つ
- 避難前に：・ブレーカーを落とす ・子どもは抱っこ紐等を使って抱っこして避難  
・幼い子ほど親の顔色に敏感、まず自分が落ち着く
- 避難する時、子どもにリュックを、中には食料・水・笛・ヘルメット、そのほかには？  
子ども用には、家族の写真・お気に入りのおもちゃ・住所名前など個人情報の入ったメモ、大好きなお菓子。はぐれても、家族を見つけてもらえる。慣れているおもちゃ・お菓子で落ち着ける。メモには家族の名前・住所、アレルギー等医療情報も入れるとよい。

#### <アンケートより参加者の感想>

- ・すべてとても分かり易かったです。乳幼児向けの防災講話は少ないので良かったです。また、各務原市の地図を使って想定される地震について説明してもらえよく分かりました。すべて図式化されていてメモも取り易かったです。ミルクなど実際に手に取ってみることができたので分かり易かったです。
- ・子どもの防災リュックの持ち物がとても参考になりました。今準備してある物に追加しようと思いました。子どもの視野については今まで全く考えられていなかったのもとても勉強になりました。
- ・勉強になりました。災害遊びを学ばなかったら、その遊びをしている子を見たらきっと注意していたと思います。今度備蓄のご飯などを持って近くの公園でピクニックしたいと思います。参考になった1時間でした。
- ・食料や日用品の備蓄はやらなきゃと思っていてもなかなかできませんでした。今日教えてもらったローリングストック法なら日々の買い物をもだめにするという簡単なものなのでやってみようと思います。



#### ●乳幼児に対する防災意識・知識が満載！

消防士である講師の専門的な知識が豊富で、乳幼児に対する備蓄や遊びの中に準備ができる方法の紹介などがあり、参加者からの感想に「話された内容が今まで知らなかったことばかりです。」という驚きがあるように防災の新しい学びがいっぱいでした。



液体ミルクと哺乳ボトル



チャイルドビジョン

#### ●実物で体感！

液体ミルクや哺乳ボトルの実物を参加者が見て触って「便利そう、いいね」とうなずく場面もありました。

チャイルドビジョンは子どもの視野を体験したことで、見方が変わる場面もありました。体験は大きな学びです。

